

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPU

11

November 2018
No.789



子育てパパママ応援します！（魚沼市）

薄い布を使い“わらべ歌遊び”をしている時のショットです。最後に布をかぶせると可愛い歓声が響きました。

4~5

特集

災害に備える公民館

新潟大学 雲尾 周

CONTENTS

- 2………… トピックス 「社会教育関係者元気アップ交流集会開催」
- 3………… 視 点 「これからの生涯学習」 阿賀野市中央公民館長 齋藤 弥一
ひろば 「参加しやすい環境づくりへ」 燕市中央公民館社会教育課 安達 恭子
掲 示 板 「平成30年度下越地区公民館関係役員等研修会兼下越地区社会教育研究集会開催される」
- 6………… 実践記録シリーズ 高齢者学級「聖山大学」 聖籠町公民館
- 7………… サークル交流 「1年を通じて交流の場」(田上町) / 「楽しみながら描く」(糸魚川市)
素 顔 拝 見 大江 匡たすくさん(五泉市) / 渡邊 真吉まきちさん(新発田市)
- 8………… お元気ですか 「ふれ愛 まなび愛の公民館」 新潟市・更級ゆきえさん
ネットワーク 「公民館関係書籍のご案内」

TOPICS

社会教育関係者元気アップ交流集会開催

新潟県生涯学習協会では、社会教育の仕事にかかわっている

方が交流集会に参加して疑問や悩みを語り合い、つながりを作ることや学びの大切さを考える元気アップ交流集会を9月29日(土)に開催しました。

会場の柏崎市谷根「旧山崎邸」には、県内外から多くの関係者が集まりました。県公連から事務局の広瀬、田原が出席しました。

交流集会は、3名の方の話題提供、意見交換、まとめの講演という流れで進められました。

話題提供1 沢田 繁さん

(上越地区社会教育主事会)

- ・上越地区社会教育主事会の学びと50年の歩みについて
- ・学びあいの成果、社会教育主事の極端な減少や主体的な力量形成の場づくり等について課題と今後の展望について考えを述べ

ました。

話題提供2 杉山 茂一さん

(新潟市石山地区公民館)

- ・石山地区公民館の概要と公民館と学習する組織について述べました。

話題提供3 中村 亮彦さん

(千葉県君津市周南公民館)

- ・社会教育職員の学び〜千葉県君津市の公民館職員の一例から〜と題して、公的な研修による学びの場(千葉県公民館連絡協議会、君津地方公民館連絡協議会、君津市社会教育研究会、君津市社会教育関係者研修)、「それ以外」の場による学び(職員組合、君津市の公民館を考える会、日本公民館学会や社会教育推進全国協議会などの全国の場合)について述べ、
- ・「公民館職員になる」ために

学びに向き合うことが大切であると語っていました。

話題提供後、早稲田大学講師川野佐一郎氏、日本体育大学教授上田幸夫氏、元和歌山大学学長山本健慈氏も参加して意見交換が行われました。

各市町村での地域課題や解決に向けた取組の紹介

- ・公民館の所轄が教育委員会から首長部局への移管が進められたときの問題点等



- ・公民館などの社会教育施設が地域づくりの拠点として他の行政分野と取り組んだ例の紹介
- ・指定管理の取組例



最後に、千葉大学名誉教授長澤成次氏より「社会教育職員が学び続ける意味」について講演がありました。

講義の終了後、夕刻から懇親会が行われ夜遅くまで熱く語り合いました。(広瀬)

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部160円 年間1,920円(いずれも送料含む)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107 新潟県公民館連合会 TEL・FAX025-266-7711



参加しやすい 環境づくりへ

燕市中央公民館社会教育課
安達 恭子



今年度の人事異動で4月から燕市中央公民館に配属になり、市民教養講座の仕事を担当しています。前は燕市役所内の会計課におりましたので、まったく異なる環境と仕事内容に戸惑いを感じながらも日々仕事をすすめています。

今年の市民教養講座は12講座(初めてのピアノ、絵手紙、クラフトバンド、実用書道、やさしい英会話①②、ペン習字、フラワーアレンジメント、彫金、パン・洋菓子・和菓子作り、型染め、パッチワーク)が開講され、多くの市民の方々が熱心に受講されています。10月には、燕市美術展覧会が会場の都合で、中央公民館で開催されました。その期間については、市民教養講座が普段使用している部屋が使えず、日程や部屋の変更などの調整に苦労しました。そんなことも含めて、今後も講師や受講生たちの活動に支障がでないよう、サポートしていきたいと思っています。

課題としてしましては、新規受講生が多いと募集定員を超えてしまっているところがあります。受講を断らなければならない方が多く発生し、逆に少なすぎるという状況で、最低遂行人数に達しないため開講できない、又は開講できても経験者ばかりといった問題点があります。長年教養講座の受講生を続けている方々からは、自主運営のサークル化への移行なども徐々にすすめていただくと考えています。そして新規の方が参加しやすい環境づくりを整えていくことも大事なことで、私自身頑張っていきたいと思っております。

視点



阿賀野市中央公民館長
齋藤 弥一

「これからの生涯学習」

阿賀野市は、新潟市中心部から20〜30km、朝夕の通勤時間が1時間未満(昔は1時間半かかったこともありましたが)に位置します。

昔は地域に子供の声が聞こえ、とてもにぎわっていたとは言えませんがそれなりに活気がありました。しかし、現在では子供の声が聞こえないばかりか空き家が出てきている状態であり、行政の重要施策として人口

減少の抑制、少子高齢化の防止が挙げられています。(他市町村でも同様なことが起こっていると思います)

私はこの春から生涯学習課長として赴任し、各文化団体等の総会などに参加した際に、会長さんたちのあいさつで話されていたことが「構成団体が減っている」、「会員数が減っている」という話を多く聞きました。また、そこに参加されている構成員の方々は皆高齢な方ばかりであり、ここでも人口減少、少子高齢化が進んでいるのだと感じました。そこで、前途したように新潟

市のバットタウン的要素もあることから、子育て年代の30〜40歳の年代や団塊の世代の方は少なからず住んでいるので、会員の年齢構成を変えることはできるのではないかと、もしそれが実現すれば地域の活性化につながり、ひいては人口減少、少子高齢化の歯止めにつながるものと考えました。

しかし、その考えを実施することは容易くはなく、変革するための時間は短くはないものと考え、これらの取り組みが国・県が進める「循環する生涯学習」に繋がるものと考えております。

掲示板 HOT NEWS

平成30年度下越地区公民館関係役員等研修会兼下越地区社会教育研究集会開催される

期日 平成30年10月5日(金)
会場 新発田市生涯学習センター
内容
○講演会「市民が学びを創れる時代の地域での学習支援」
講師 新潟医療福祉大学
助教 佐藤 裕紀氏

○分科会
・下越地区公民館連絡協議会3分科会、下越社会教育委員連絡協議会2分科会にわかれて担当市町村の発表について意見交換を行いました。



特集

災害に備える公民館



雲尾 周
(新潟大学)

2004年10月23日(土)17時56分、どこで何をしていたか、30代以上の新潟県人ならばほぼ答えることができるでしょう。新潟県中越地震(新潟県内の通称は中越大震災)から14年たつ中で、2007年能登半島地震、新潟県中越沖地震、2008年岩手・宮城内陸地震、2011年東北地方太平洋沖地震(通称:東日本大震災)、2016年熊本地震、2018年北海道胆振東部地震と全国で地震が起こり、中越地震と同じ年の7・13水害以降、大きな水害等も全国で11回を数えます(気象庁「気象庁が命名した気象及び火山現象」より)。個々の台風被害はほとんどこれには含まれていないため、もっと多くの風水被害があるわけです。

そのたびに、それぞれの地で学校や公民館等に人々はかけこみ、避難所が開設され、水や食料の支給を受けながらも、不自由な、つらい生活を送るようになります。

そういった生活を送りたくないとするれば、自宅をあらゆる自然災害に耐えうるよう頑強に作り、自家発電装置・通信手段や水・食料備蓄などを十分に用意し、また帰宅難民になってたどり着けなければ意味がないので家族みなが複数の交通手段を確保し、なん

としても帰れるような、そんな備えが必要になります。ほとんど不可能といえるでしょう。

災害時には耐え忍ぶことができないのでしょうか。そうではなく、公民館の日常のあり方、地域住民の活動と公民館との関係によって、避難生活の様相は大きく変わります。

それでは、災害に備えて公民館は何をしなければならぬのでしょうか。かっこ書きで言葉を補って言えば、「災害に特化してではなく通常の公民館活動を行うことで結果として」災害に備える(市町村の設置する機関としての公民館とその職員のみを公民館とするのではなく、そこに「まなび」活動することで公民を体現している地域住民も含んだ公民館」となっていくということです。

もちろん、市町村の避難所指定されているわけですから、そのための備蓄や設備の配置は必要です。それは行ったうえで、それでもなお行ききれない十分な面は出てきます。実際に地域に住む人すべてを収容できる規模の施設ではもともとありません。必然的に備蓄食料も地域住民すべてにいきわたるほど置いておくことはできないのが現実です。

それでも公民館の果たすべき役割を推進することで、災害に強い地域をつくり、災害に備える公民館となることができます。

まずは、公民館の所在する地域の状況を理解することは大前提です。表にあるような自然災害について、どの影響を受ける可能性があるのかを把握しておくことが必要です。気候を誘因とする干ばつ、冷夏

などは避難所としての対応ではありませんが、地域の農業被害という点からは注視する必要があります。災害とまで言いにくいですが、フェーン現象による熱中症などの対策として、冷房の効いた公民館に住民から来てもらうことで被害を防ぐようなことも近年は多くみられるところです。

そのうえで何をすべきか。「今後の社会教育に期待される3つの役割」(学びを通じた地域づくりに関する調査研究協力者会議「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて」論点の整理「文部科学省生涯学習政策局社会教育課、2017年3月)を手掛かりに見ていきましょう。

地域コミュニティの維持・活性化への貢献

一つ目の役割について詳しくは「学びの成果を活かした地域づくりを通じて、地域コミュニティの維持に貢献」、「地域の特性に応じて、交流人口拡大と地域活性化に寄与」とされています。

災害時には住民が個々ばらばらに動くのではなく、助け合って避難することが大切です。阪神淡路大震災でも倒壊家屋に巻き込まれた人で消防や警察に助けられた場合は極小であり、自力での脱出と近隣の人に助けられた場合とがおよそ半々です。大規模災害の場合、公助が及ばないところが大半です。自助を基本としながらも共助が行われるためには、「日ごろから地域コミュニティが維持され、近隣でのつながりが保たれていることが必要です」。

また、交流人口は、地域外に存在する地域の応援団

を意味します。地域が被災してあらゆるものの不足状況が生じても、被災していない地域からの支援があれば、乗り切ることが出来ます。遠隔の都道府県や市町村で災害時相互援助協定が結ばれていたりしますが、都道府県や市町村を経由しては、一つの公民館にはいつ配分があるかわかりません。地域同士の、公民館エリア通しの交流と(できれば援助協定)が迅速・確実な援助につながります。

社会的包摂への寄与

二つ目の役割について詳しくは「高齢者、障害者、外国人、困難を抱える人々など、すべての住民が孤立することなく、地域社会の構成員として社会参加できるよつ社会的包摂に寄与」とされています。

災害弱者と呼ばれる人たちにどう対応するか。高齢者、障害者については災害時要援護者台帳(避難行動要支援者名簿)を作成すること、つまり地域に住む支援が必要な人と支援する人を登録することができないといけません。個人情報保護概念の浸透、人口の流動化や建築物の遮蔽性の高度化等により支援が必要な人の情報把握ができないというところもあるでしょう。しかしそこは、一つ目の役割による地域コミュニティが維持されていること、すなわち地域交流の希薄化が防がれ、顔と顔とのつながりが維持されていればおのずと情報は集まりますし、登録することへのためらいもなくなるでしょう。運営・支援する人さえ得られれば、福祉避難所となることもできそうです。

外国人についていえば、国際交流サークル、語学教室などに参加していれば、公民館避難の垣根はさぐいぶん低いものとなります。日頃から外国人の公民館利用者が多ければ、おのずから掲示も多言語で書かれ、職員も対応可能であったり、なにより利用団体構成員自身が外国人の支援者となりえます。普段は公民館を利用していない外国人に、公民館の活動内容を

を広報する際に避難所としての情報も伝えることで、外国人の被災時孤立を防ぐことができます。

その他、様々な困難を抱える人々についても、日ごろから主催講座や利用団体などで、その困難について学習したり支援するよつなことを行っていれば、公民館に避難することをためらわないし、おのずと支援する人も集まります。

日常の社会的包摂があるからこそ、災害時にもより一層、社会的包摂が必要なのです。

社会の変化に対応した学習機会の提供

三つ目の役割について詳しくは「長寿化により、社会変動の影響を受ける期間が長期化する中、社会で求められる能力の変化に対応した学習機会を提供」することが必要なのです。前の役割にある社会的包摂の観点でも、登録外国人の増加した地域社会的あり方、軽度発達障害に対する認識の変化など、新たな学習内容がたくさん存在しています。

災害に関連しても、備蓄品に対する捉え方(一次・二次だけでなくゼロ次備蓄品(常に携帯)、長期保存食品でなく日常使い品を多めに購入してのローリング・ストック)、非常食(長期保存が目的)から災害食(災害時にもおいしく食べれる)など、新たな視点が出てきています(図：人と防災未来センター減災グッズ等参照)。こういった学習を公民館が提供し、地域住民が学び、みなが自宅で備蓄するよつになれば、公民館の備蓄品の不足問題は解決します。

冒頭に、地震の時に何をしていたかを話すことを書きました。東日本大震災にしてもそうですが、その時何をしてたか話し合う機会を公民館等が提供することで、いまだ立ち直れないでいる被災者に思いをはせ心を寄せ助け合い、今後の自らの備えへの気持ちを新たにすることが出来ます。

災害に備える公民館は、地域住民が集まり、学び、語り合い、つながって行動していく公民館です。

表 主な自然災害の誘因と種類

	誘因	自然災害
気象災害	雨	河川洪水、内水氾濫、斜面崩壊、土石流、地すべり
	雪	なだれ、降積雪、降雪
	風	強風、たつ巻、高潮、波浪、海岸侵食
	雷	落雷、森林火災
地震・火山災害	気候	干ばつ、冷夏、高温障害、霜
	地震	地盤震動、液状化、斜面崩壊、岩屑なだれ、津波、地震火災
	噴火	降灰、噴石、火山ガス、溶岩流、火砕流、泥石流、山体崩壊、岩屑なだれ、津波、地震

防災科学研究所「自然災害の種類」より作成



実践記録シリーズ

248

高齢者学級「聖山大学」 ～人生に修了なし～

聖籠町公民館

「聖山大学」とは

本事業は、高齢者の健康寿命を延ばし、充実した暮らしを送っていただくことができるように、仲間づくりやネットワークづくりをすすめ、生きがいややりがいを見出せる活動を工夫しながら、1年を通じ、様々な活動を計画し実施しています。

「聖山大学」の学生は毎年募集しており、一般の応募と各地域の単位老人クラブからの推薦により学生が集います。さまざまな活動に参加し、1年間の学びを終えると修了証書が授与されます。これまで、卒業生延べ1,682人、46年の歴史を誇る事業です。

「活動のようす」

学生たちがはじめて集う「入学式」に始まり、町内の文化財について学ぶ「文化財めぐり」や、町内外の事業所・施設などをめぐる「見学会」、農作業体験や陶芸体験、初釜体験などの「体験活動」、健康増進、歴史、終活などさまざまな内容

の「講演・講話」や、泊りでの「修学旅行」などの体験事業を行い、最終的な「卒業式」を迎えます。

過去には、「野外キャンプ」や「地引



「週末体験くらぶ」と一緒に農業体験

網」、「運動会」、「音楽活動」も行われていました。

卒業生で構成されている「聖山大学OBコーラス部」という団体も組織され、毎月定期的な活動を展開しています。

教育長が学長を務め、毎年20、30人の学生が集い、月1、2回の頻度で年間十数回の活動を展開しています。平成30年度は、「聖山大学」第46期生 21人の学生で活動しています。



貴重な体験をした船上みごと見学

「今後について」

「聖山大学」の学生数がやや減少傾向にあることが懸念されます。これまで、一人1回の入学で、卒業生の再入学や途中入学を認めていなかったことが要因の一つと考えられます。



町の歴史をたどる文化財めぐり

卒業生で再入学を熱望する声もあり、どのように対応していくか検討中です。今後も、学生の交流を広げ、さまざまな経験をすることのできる貴重な学び場であることを心がけながら、学生の多様なニーズにそった多様な活動を企画、実施して、事業の魅力向上に努めていきたいと考えています。



想いを形にした陶芸体験



はじめてのNHK新潟放送局見学



1年を通じて
交流の場

田上町陶芸教室

活動の場は、町の陶芸棟、毎週水曜日の午前中。会の前身は、33年前、老人福祉活動としてスタートしたのが始まりとのこと。現在の会員は、17名ほど。田上町在住の陶芸家、石田一平先生より指導してもらって、自分だけの作品作りに励んでおります。会員の運営は、素焼、本焼はもちろん、年間を通じての交流、忘・新年会はじめ、夏忘れ、研修旅行など、グループ分けをして、分担し、取り組んでおります。作品の発表は、田上町文化祭、数年前より行なわれている、「湯のまち巡り」が主なもの。私達のグループも、田上町文化協会の構成団体ですが、構成員の高齢化や、「若者層の多様なな



か?」公民館活動の低調化を感じていますが、全員で会を盛り上げ、新規加入者の拡大に向け、取り組んでいるところです。来春には、新しく公民館の入交流会館オープン予定です。文化的発信の場となるべく、全員期待しているところです。

田上町・田上町陶芸教室
会田 一 記

楽しみながら描く

カルチャー工房

油絵教室のカルチャー工房は発足してから38年が経過しました。当初から講師として小野先生に指導を受けて今日に至っています。糸魚川市合併以前は旧青海町の会員で活動していました。合併後は遠方からも教室へ足を運ぶ会員が加わり、人数も

増え現在は18名で男女別では半々で年齢層も40歳台〜80歳台までと幅の広いサークルになっています。教室の方針は「楽しく、描きたい画題を選ぶ。」をモットーにし皆さんで手法技術を和気あいあい話し合い、お互いの作品に刺激を受けています。教室は月2回土曜日の午後から青海生涯学習センターの一室で開き、3時間の間に音楽を聴きながらキャンバスに向かい、又コーヒータイムの時間を設け充実した時を楽しんでいます。毎年6月には金・土・日曜日の3日間、青海総合文化会館のギャラリーで一年間楽しんで描いた作品70点近くを展示し、地域の方々350名以上が来場していただいています。秋には各部門から数多く出展する青海美術展があり、カルチャー工房も参加しています。「楽しみながら描く」をモットーにこれからもカルチャー工房油絵教室を末永く続けていきたいですね。



糸魚川市・カルチャー工房
工房長 平田 等 記

五泉市公民館
主事 大江 匡さん



今年4月に配属となった大江匡さんを紹介いたします。大江さんは、シニア世代向けの教室や成人式の企画運営を主に担当し、各地区公民館活動のサポートも行っています。

柔和な雰囲気と語り口が持ち味で、その丁寧な窓口&電話対応の様子は、周囲に「ぜひ見習いたい!」と思わせるほど素晴らしいものです。

そんな優しい一面が光り輝く大江さんですが、実は「熱い男」なんです!自分が担当するとなったら、事業の計画や段取りに余念がありません。また、夏におこなったジグマスのつかみ取りでは串うち担当を買って出て、魚を怖がる子ども達に熱血指導してくれました。

異動してきて半年がたった今、定例の行事の他に、趣味であるサッカーや食べ物や旅行に関する講座が開けるよう思いを巡らせているようです。

各種の研修や会議などで大江さんを見かけたらぜひ気軽にお声掛けを。きつととびっきりの癒しスマイルを返してくれますよ!

(五泉市教育委員会生涯学習課 小池 和代 記)

新発田市加治川地区公民館
主事 渡邊 真吉さん



加治川地区公民館の渡邊真吉さんを紹介いたします。

渡邊さんは採用2年目で、この加治川地区公民館が最初の職場というフレッシュマンですが、公民館に来館される方は、「渡邊さんはいねかね」とか「そのしょ(渡邊さんのこと)どこだね」など、渡邊さんを訪ねて来られる方も少なくありません。その落ち着いた風貌と柔らかな話し方に癒されるファンも多いようです。

そんな渡邊さんは、大学時代にクラシックギターを嗜み、演奏会と称したライブ的活動もしていたとのこと。休日には身体づくりのためジョギングをしたり、最近では、観賞用の植物を育てているなど、多趣味な一面を持っています。

仕事では、若さとそのバイタリティーからハイキングや登山イベントなど体力勝負の事業を任されることも。社会人2年目で、まだまだムラはありますが、色々なことにチャレンジし、誰からも頼られる職員になってもらいたいです。

(新発田市加治川地区公民館 石田 義光 記)

素顔拝見

ネットワーク

〈公民館関係書籍のご案内〉



社会教育 <http://www.social-edu.com>

2018年11月号 869号 (普通号:96p)
特集:「ゆめ」いっぱい公民館の未来像
学びの循環の起点~地域の社会実験場「らぼ」~

〈提言等〉

これから必要な学習課題をおとなも子供も学べる場
愛媛県新居浜市教育長 岡福生
「公民館じょいんとプロジェクト:共働のための手引き」
NPO法人ふくおかNPOセンター代表 古賀純子
「お祭り」公民館「特色」を意識し分かりやすい発信
栃木県さくら市氏家公民館館長 橋川恵介
公民館のない自治体からみた公民館
横浜市緑区こども家庭支援課学校連携・こども担当課長 坪内一
公民館運営審議会は参事の仕組み 埼玉県北本市 工藤日出夫
公民館は人材インキュベーション 鳥取県益田市 大畑伸幸
公民館は生活の場 山口県萩市明本公民館 片岡恵
※予定が変更することがあります。

新規購読・DN・書籍申込書

「公民館関係書籍・雑誌」のお申し込み
公民館関係書籍・雑誌の購読料は、送料を別払いしていただく。購読料は送料サービスで
年間9,920円とお得です。料金をおいでの購読料をお申し込み下さい。
購読料 243円 (本体価格1冊) [税込 267円] (年10冊発行)
購読料 7,143円 (本体価格1冊) [税込 7,847円] (年1冊発行)
公民館関係書籍・雑誌の購読料 (送料サービス) 9,900円 [税込価格年12冊]
連絡先 一財 日本青年館 「社会教育」編集部 読者サービスセンター
【電話】03-6452-9001 【ファックス】03-6452-9026
【Eメール】social-edu@rippon-senmonkan.or.jp

お元気ですか

更級ゆきえ
(新潟市・北区)



「ふれ愛 まなび愛の公民館」
あれから40年、どこかで聞いたよ
うなフレーズですが、私の豊栄地区公民
館との関わりは、今年でもう40年にな
りました。

始まりは、マイホームを築いて豊栄市
の市民となったことからでした。早く
地元のことを知りたくて最初に浮かん
だ所がこの公民館だったので。なんと
そこには図書館が併設されていました。
その図書館に度々通うようになり、暫
くして「図書館友の会?」こんな名称の
ボランティアグループからお誘いがあ
りました。公民館の通常業務終了から
夜九時半の閉館までの間、日中の来館
が困難な利用者に配慮して図書の出
出・返却業務を担うグループでメン
バーが交代しながら担当していました。
やがて今のような立派な図書館に受け

※「お元気ですか」のコーナーは掲載をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

継がれ、役目を終えました。
その後、趣味の大正琴教室の会場と
して生徒の皆さんと毎月2回会議室を
お借りして練習を重ね、公民館まつりや
文化会館での市民音楽祭への出演、地域
のお祭り行事や福祉施設から要請を頂
いて出前演奏会を行うなど、緊張の中
にも多くの場所を楽ししく活動しまし
た。これらは懐かしい思い出になりつ
つありますが、もう一つの趣味である押
花の個性も区民キヤラリーをお借
りしてこれまで何回か開催させていた
だきました。

現在では豊栄地区公民館活動協力員と
して毎月第2土曜日開催されている
「サタデイキッズ」の運営をさせていただ
いております。
これは北区内の年間登録をした小学
生が対象で、新潟医療福祉大学の皆さ
んを核として子どもたちに社会学習の
機会を提供する活動です。毎回テーマ
を変え、豊栄名産のトマト収穫体験、押
花を使った作品作り、子どもたちに人気
の仮装deハロウィン等々、毎回趣向を
凝らしたテーマを取り入れて実施して
います。
また、「近所だんぎ」これも人気のイ
ベントで、この運営スタッフとして関
らせていただいております。
毎月第2木曜日開催し参加は自由
になっており事前にお願した講師の方
から身近なテーマでお話し(例えば振り
込み詐欺の被害を防ぐなど)をしてい
ただき、その後は参加者が幾つかのテー
ブル毎にお茶とお菓子を食べながら、当
日のテーマに沿って井戸端会議の雰囲気
で寛いだ時間を楽しむといった内容で
私にとってこれらの活動はまさに「ふ
れ愛まなび愛」の場であり、公民館は私
を育ててくれた大切な場所になってお
ります。

地すべり被害を未然に防止するため取り組んでいます

協議会会員12市町では国土保全を目的に、地すべり地域の保全と自然環境の保護及び地域振興に取り組んでいます。

そのため、地すべり防止対策事業や関連事業による農業並びに生活基盤の改善を積極的に推進しています。

新潟県農地関係地すべり防止事業推進協議会
会長 (妙高市長) 入村 明 (会員12市町)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館 (新潟県市長会内)
TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

編集後記

月報の編集作業をしていて国語辞典を引くことがよくあります。最近、高校生向けの現代新国語辞典が発売されたのを知りました。これは「イキ色」、「グブる」、「ぼちる」等の俗語も新しく立項されているそうです。私

にとつては最近の俗語やその言いまわしに意味不明なことが多いいのですが、語彙力アップを目指して高校生じゃなくても買いた。パソコンを持っていれば、ググると何でもわかる時代なのですが…
(広瀬)